

お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第6弾をお届けします。

(シリーズ担当：R.I.)

6. 稲の栽培

我々は「稲作」と聞くと、すぐに水田の稲が思い浮かびます。それほど緊密に、「稲作」と「水田」は、私たちの中で繋がります。地方により若干は異なりますが、関東地方の場合、大体4月末から5月中旬にかけて田植えをし、8月下旬から9月中旬までに収穫する水田での稲作風景が見られます。夏に、田園地帯を走る列車から見る水田は、まるで緑の絨毯のように稲がきれいに揃って見えますし、秋の収穫前の成熟期（登熟期）には、黄金色の絨毯のようになって見えます。最も、最近の稲は、止め葉と呼ばれる最上位の葉が直立しており、それに隠れるようにして穂が実りますので、一昔前のように一面穂波が見えるという景色ではありませんが、それでもこれが日本の水田であり、稲作の代表的な風景です。これは、長い年月を掛けて、我が国の先人たちが大変な努力と苦勞の結果、築き上げられて来た賜物であります。もちろん、これは現在でも農家はその技術と文化を継承し、維持しているからに他なりません。実は、このように美しく綺麗に揃った稲を見ることができるのは、世界でも限られた国だけです。

一方、今の日本では本当に僅かになりましたが、陸稲が主に茨城県や栃木県で栽培されています。陸稲は、降雨に依存する稲作なので、その平均収量は水稲作の半分にも満たず（全国平均で水稲 5.3t/ha に対し、陸稲 2.3t/ha：玄米換算）、しかも年次変動が大きく、極めて不安定な作柄になることを覚悟しなければなりません。なお、日本の陸稲栽培では、ほとんど糯の品種が栽培されています。陸稲の糯米は、加工用のあられやおかきなど米菓の原料として使われています。ついでに申しますと、水稲の糯米は、その殆どが餅になります。

世界の稲作を見ると、日本で見られるような灌漑水稲や陸稲だけでなく、雨季の降雨を畦で貯め、それを稲栽培に利用する天水田稲、また雨季の後半に大河の氾濫原に展開される深水稲や浮稲などの栽培があります。さらに、河口付近の汽水域では、潮の満ち引きによって水位が上下し、時には潮水が水田に侵入してくるような場所での稲作もあります（マングローブ稲）。これらは、まとめて洪水常発地稲栽培と呼ばれます。このように、世界では多種多様な稲作が展開されているのです。

かつて日本でも、耕地が用水路よりも高い位置にあり、灌漑水の利用困難であった畑地では、陸稲しか栽培できませんでしたが、「陸田（りくでん）」と称し、井戸水を動力ポンプで汲み上げて水田を作り、稲作をすることもありました。昭和30年～40年代、このような陸田での稲栽培が盛んになりましたが、減反政策で米の生産制限をするようになってから、見られなくなりました。

ここで、世界では稲がどのように栽培されているかを見てみましょう。表6-1に示したデータは少し古いのですが、世界の稲の栽培方式（生態系）の概要を把握できると考え、敢えて掲載します。世界全体では、灌漑水稲が稲作全体の56.9%を占め、同じく天水田稲が

30.9%、陸稲が9.4%、および洪水常発地稲が2.8%になります。次に、世界の地域ごとにこの4つの栽培方式がどのように分布しているのかを見てみましょう。

前にもお話しましたが、世界の稲栽培面積の9割近くを占めるアジアの作付け比率がそのまま世界の統計に反映していることがよく分かります。また、大洋州、合衆国、ヨーロッパの稲作は全て灌漑水稲ですから、この地域の平均収量が高いことは当然と納得できます。

一方、アフリカは、灌漑水稲が全体の4分の1弱(22.8%)であり、残り4分の3強が降雨依存型の稲作になります。このことから、アフリカ全体における稲の生産量の低い理由が頷けます。また、中南米では、灌漑水稲と陸稲がほぼ同じ比率であり、それぞれが稲作全体の半分ずつを占めています。特に、ブラジルでは、陸稲栽培が盛んですが、大変生産性の高い陸稲栽培を展開しており、全体ではかなりの収量になります。FAOSTAT(2011~2016年の平均値)によれば、ブラジルは、世界第9位の生産量を誇っています。

表 6-1 世界の稲、地域別の栽培面積、生産量および収量

地 域	栽培面積		生産量		収量	
	(ha)	(%)	(t)	(%)	(t/ha)	(%)
世界全体	162,153,512	100.0	738,015,916	100.0	4.6	100.0
アフリカ	11,698,137	7.2	29,320,786	4.0	2.5	55.1
南北アメリカ	6,484,289	4.0	36,703,032	5.0	5.7	124.5
アジア	143,221,682	88.3	667,023,008	90.4	4.7	102.3
ヨーロッパ	668,113	0.4	4,194,738	0.6	6.3	138.0
大洋州	81,291	0.1	774,353	0.1	9.5	209.2

FAOSTAT(2011~2016年の平均)から

次回からは、灌漑水稲、天水田稲、陸稲、洪水常発地稲の順に、ひとつずつ取り上げてお話しすることになります。